



泊如集
中



泊船集卷之三

芭蕉菴拾遺稿

洛陽 風國撰次

之九部

山崎宗鑑の旧跡

有るはまのりなまけん杜若



郭公

須乃延れ矣かきかへり郭公

此語ハ須ノ紀ノ一
ノハ須ノ延れ
源平ノむ
吟

郭公正月八梅乃巻

清くゆく耳よ青梅し

形も羅へ入るし

舞も清く馬川せよ

子規あはれゆくまむ花

ほろろゆく大行雲の瀟湘

杜鵑あはれゆくおのれ上

郭公のうたへん

鳥雛あはれゆくまむ花

本よりゆく茶摘りゆ

糸よりゆくあはれゆく

あはれゆく

杜鵑あはれゆくあはれゆく

子規あはれゆくあはれゆく

牡丹

~~~~~  
~~~~~牡丹~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

風

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

小倉山

松杉を採りてて風火を避る

落柿舎

柚乃を採りてて風火を避る

お

お

二句八時月

凡

お

お

お



山

山

山  
富上川

大井川

堀本氏

大井川

大井川

大井川

大井川

大井川

山

山

山

山

山

山

山

山







Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

津

大津細仁

水雞

けし白ハ水雞しんぬ

露川

おくり

水雞

さか

水雞

水雞

水雞

水雞

水雞

水雞

水雞

水雞

夕顔

夕顔や酔て顔もまゝ寝乃宛

夕顔は入んじゆ中もさうし

夕顔乃白く抱乃は加すよ

こ天和乃比乃白まも

燭

浮

川中舟想はせよ

霞のよ

浮 海へ入る風上三

四条乃川原すこ

夕月お乃ころがち有

夕乃まき川

をちよこ

酒乃よのよあそ

たき一むさひ

ねとこ

法師老人

福也

24

かん第子おましとまほ

うかよひひ乃ひ

さたひる都乃乃

さく

川 風や清なるなる

くまみ

閑居のあはれなる

りよひひ

清 十六の圖なる

ほむら

淵 葎なる

あつと吹浦の

尾花澤清凡

さ 井家なる

な

腰

腰は 霞 睡ぬ

満

25

26

象瀉

象瀉乃雨也西行法師の合歡の  
ヲセ

西行法師 西行法師

象瀉乃極ハヤシキヨ埋れ  
てお乃上こ延出れ舟

花乃上漕トモトモ  
を古ま極トモトモ  
満ち乃上りて  
波を浸せる夕晴ハ

夕晴や極子涼すは乃  
子也

十八樓乃記 乃日地乃人  
之

けあなるも月乃  
皆治り

野ノ剛亭

ささきと繪  
風瀑を駭別  
峯乃

ささきハ小舟乃  
氣め

雪草子

涼ニやニ枝ノ枝ノ枝ノ

乃形

唐破凡此入目也

雪草子

雪草子

秣ノ月ノ入ノ枝ノ枝ノ枝ノ

りノ入ノ入ノ入ノ

雪草子

いノ好ノ角ノ好ノ好ノ

あノ好ノ好ノ

雪草子

雪草子

雪草子



郭  
云用ひし物也  
か  
か

月とてんしと  
須之  
の

申すは  
今集む  
の

正成之像

鉄肝石  
心け  
乃情

坊  
梅乃露

竹辭日

好  
竹  
日ハ  
表

泊中

岐阜

おのろ

おの舟

名ふあへる鶴飼とよ

もろ子又侍んとて暮

掛してはちの中さよ

人へ稲葉乃は陸

まへや 盛を興す

まへまへは長良川乃新

まへまへ

基風馬乃

まへまへ

まへまへの路

駿河路やまを橋とよ

白守

二

月平の流時を  
ひらきぬ

清瀧

清瀧や波平のちりこ

青松林

波平の聲を  
かきとる  
清瀧乃あり  
ありハ聲の  
こゝろ

山

六月や山峯の雪を  
あらし

那須の温泉

湯をむきぬ  
おの岩清

逢龍尚全

花乃名を  
かきとる

此六本音路かあし

旅人乃ふも似よ推のそれ

うまへの旅 あしは本音の

岐阜山

城あや右井入清水先同す

尾刀初入今の吟と

世も猿よ志るく 小田の

盤斎 しるむまは  
像 しるむまは

團 あしは

奥 あしは

ゆき あしは

お初 あしは

眉 あしは

Handwritten text at the top and bottom right corners of the page.

千一子の身ちのこみ

このおぶり去このおぶり

付つ

なまへ乃小袖なまへ今いま出用しゅうよう千

幻住まぼろし菴あん 詠えい 獲とく 蕪わ マリ

えふ乃えふ 権乃けん 本もと 小こ ありあり

佛頂ぶつどう 禪師ぜんじ の 菴あん なるなる

本もと 乃の 菴あん 八はち 乃の 小こ ありあり

笛ふえ 別べつ

〜

〜

其その 乃の

麦あわ 乃の 權けん 乃の 小こ ありあり

〜

〜

Handwritten text at the bottom left corner.

Handwritten text at the bottom left corner.

海軍

加列小枝より別紙

廿九日入るに付ぬきしや軒の

加列小枝より別紙

との書しに羽子引しに名残地

武隈乃委入を申し七運橋

樂白と云者饒別り

梅より書ハハと申す月紙

奥方別紙

あつややと申すの

あつや

あつやと申す海子入

あつや

あつやと申す海子入

1870







泊船集 卷之四

芭蕉菴拾遺稿

雜陽 風國撰次

秋乃部

越後の公高田醫師阿

子富

藥園

淡中

初秋や事いささかの秋風の

たそ

又月の六日し掌へかきおこす

~~~~~

合歡の本此葉もさしこも影

~~~~~

世元梅や依流の椿よの天の河

吊初秋七日雨望

元禄六文月七日久お風

~~~~~

河九日年とこ

~~~~~

烏鶴と橋杭もさしこも

~~~~~

~~~~~

廿五

廿六

廿六

一燈の如くほのぼのたる  
小町の舟の舟人  
ちよと星の舟の舟人  
を探して雨星の舟人

小町の舟

しる水の星の舟の舟人

遍照の舟

杉風

七の舟の舟人

縮合羽

素堂の舟

七の舟の舟人

素堂乃母七十餘の舟  
乃秋七月七日の舟  
万葉七種の舟  
是よつの舟  
縁の舟  
各々の舟



— 麗を、八幡の女衆に  
うかひて

まを、まを

ひよろ、ひよろ、  
かき

家ハ、ハ、杖、  
かき

け、け、  
かき

か、か、  
かき

か、か、  
かき



何れにほりて種はし

は句ふりま 〇カキ

〜カキ

箱書

あしきしにさしあひはし

さしあひはし

カキカキ

寄下

さしあひはし 燭

箱書 〇カキ

あしきしにさしあひはし

骸骨繪寶

箱書 〇カキ

山崎  
いづれ白雲の峰に  
たゞとて

秋風

あつと日ハ難重秋の風

秋風乃吹とて昔  
粟乃

那谷乃觀  
石乃石乃石乃石乃石乃

加賀山中  
秋風乃名をいふ  
如く

桃乃本乃其葉乃秋の風



一はかしの者か道よ好む者か  
本心よ〜  
知人の侍り  
冬・早〜  
其の心遣  
美らな侍り

城の勤む花さへ〜ハ  
あまの風

平部屋の虫の音〜  
あまの心

花衣の銘

人の心〜  
あまの心  
まろ長〜

あまの心〜  
秋の風

西東あはれおとす秋の月

おとすはまき千子いせの紀  
川書一深川一八段の  
くくくおのる其おの  
書はあはれいせの

月

大曾根乃成就院より

あまのあまのくもの影を  
おのつるまはる集あはれ  
五文字を何事乃  
とありぬ

更科嬢捨之辨  
今畧之  
小文庫はあはれ

伊や嬉ひとくちなく月のな

いさゝこひとまゐりて〜ぬる

郡のうま

之禰二年つるの漢の月を  
〜氣比乃剛神一  
諸遊び上ノ人乃古  
例をまき〜

月清〜遊び乃まほ  
砂乃上

雲の〜人をも体る月人な

夜顔〜人をも〜  
月人か

月影の〜  
月人か

日向ハ阿婆葉集と名なるを  
〜比乃路〜  
〜  
〜

若月ハ二つとて〜  
〜

谷月也（一）〜（二）也（三）

言掛しゆ月（四）者（五）海（六）也（七）

常陸（八）より（九）船中（一〇）

~~~~~

明保乃也（一一）七（一二）也（一三）之（一四）筋（一五）

堅田（一六）十六（一七）乃（一八）辨（一九）一（二〇）句（二一）今（二二）累（二三）

鑑（二四）明（二五）し（二六）月（二七）き（二八）一（二九）入（三〇）浮（三一）御（三二）堂（三三）

安（三四）〜（三五）も（三六）し（三七）い（三八）ま（三九）よ（四〇）月（四一）の（四二）重（四三）

接（四四）宿（四五）ハ（四六）四（四七）角（四八）を（四九）影（五〇）と（五一）言（五二）ふ（五三）

院（五四）し（五五）も（五六）め（五七）月（五八）徒（五九）網（六〇）等（六一）ハ（六二）空（六三）を（六四）家（六五）

（六六）し（六七）和（六八）乃（六九）ハ（七〇）白（七一）し（七二）

月（七三）さ（七四）し（七五）と（七六）明（七七）智（七八）の（七九）書（八〇）乃（八一）は（八二）影（八三）

ハ（八四）白（八五）の（八六）詞（八七）書（八八）乃（八九）は（九〇）影（九一）と（九二）言（九三）ふ（九四）

時（九五）乃（九六）は（九七）月（九八）や（九九）其（一〇〇）影（一〇一）と（一〇二）言（一〇三）ふ（一〇四）

ハ（一〇五）白（一〇六）の（一〇七）詞（一〇八）書（一〇九）乃（一一〇）は（一一一）影（一一二）と（一一三）言（一一四）ふ（一一五）

乃（一一六）は（一一七）月（一一八）や（一一九）其（一二〇）影（一二一）と（一二二）言（一二三）ふ（一二四）

ハ（一二五）白（一二六）の（一二七）詞（一二八）書（一二九）乃（一三〇）は（一三一）影（一三二）と（一三三）言（一三四）ふ（一三五）

まゝに後して詳願ある月

い白ハ鹿島

根本

...

三日月の地と膝

...

...

深川

...

川上とこ久川

十六夜ハさくら

...

月や水

...

...

...

...

あつちや

...

玉のつら

月乃のつらなるははのつらなる

湯のつら

月乃のつらなるははのつらなる

燦山

月乃のつらなるははのつらなる

瀧

月乃のつらなるははのつらなる

月乃のつらなるははのつらなる

月乃のつらなるははのつらなる

月乃のつらなるははのつらなる

正考亭の初會興行

月代や腰のつらなる

月代や腰のつらなる

九月の暮しは月夜にさす

大なる野上へ

月下の静け

月夜に静けさるる月夜に

若月や静けさるる月夜に

静けさるる月夜に

三井さるる月夜に

橋桁のさるる月夜に

さるる月夜に

さるる月夜に

天和のさるる月夜に

入月夜にさるる月夜に

東嶺のさるる月夜に

白

白

其まゝに
作られたり
海あり

其まゝに
月七

各月
二日

各月
田

各月
田

由

其まゝに
田

聴聞

其まゝに
田

其まゝに
田

其まゝに
田

其まゝに
田

〜

田中此は...

刈草もや早稲〜

野田

野田

病雁乃もた〜

落〜
揺ねのな

桐乃木よ鶏〜

鷹乃目〜今や〜

先乃名乃あ〜

系乃

系乃〜

美流如小別野

ら〜

琴箱や古物店に背

お白の玄葉乃ちもさういふ
つりけりぬ

草むらさきや白くわし

お白ハし別々酒も推し

まかり 酒も推し

つり

茶巻乃雨

都あは茶葉ほのむのあ

加多山中一茶場

山中や茶のよもゆめ湯乃
よほひ

茶乃茶葉や石屋乃石乃

よ田三

かめいりや月と茶のよ田三

草の香

草乃香也 大正四年

草乃香也

草乃香也

草乃香也

草乃香也

草乃香也

草乃香也

草はるの香

白草乃香也

草乃香也

草乃香也

草乃香也

草乃香也

草乃香也

才曾路下

孫や今下とていかにさうと

ほろつ支

鬼灯も實も葉も

晝 賛

雞頭や雁乃来る世尚あつ

夜

深川 お遊

青くともある海もあつ

白くともあり深川集

母を名養

羊のふとていかに穂黄多

伊賀山中二句

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

妻まよひや~~~~ねまら禁の

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

ひいとち〜尾ま〜の解
おのゝ鹿

野〜

猪もとの〜〜〜の〜野〜

秋乃くれと

枯枝〜鳥乃とはりりり
秋乃暮

こま〜むを井もまひ
秋のれ

秋のハ雲行〜
〜らむま乃

像子〜賛〜乃〜

書〜
〜

人喜〜やお道〜の秋のれ

納印

144
145

144
145

此道やいへんを
秋のしれ

大坂清水茶店
四ノ市に居るよし

雲風の軒をりく
秋のぬ

早稲の香やふ入
右のありは

同行「曾良」
をいへりや書付
清くはる

一衣よ遊女も
庭をいへりや

此の向調す
いへりや

あつち菴よ
いへりや

秋のしれ
いへりや

あつちのり
いへりや

さや須之
いへりや

白

白

守学院

門下入念と蘭の種糸の子は

飛地

輝き倉岩嵐蘭

又ハ及日記末々ハ甚ホ出テ

秋月ノ下ノ所ニ多ク生レノ枝

初七日請草

～也元ノ七日、墓前ノ月

也月三日也

野ノ霞

野ノ宮乃花表ハ葛也

セウノカキ

鳴海知是亭

～先ノ家也 覆ルル

北月ノ種

書留賢

西ノ～ノ系種也

露

信

孫

車庸亭

面自交秋乃新慶也

雲

雲

元孫

大垣

中

中

中

下

下

下

下

女本澤一桐葉興行

秋の風は涼しや東へ

吹来り

閑なる書生一何

大坂乃

旅宿を訪れ侍り

み侍り

多しとていとよき人ぞ

宗祇乃もいとよき人ぞ

是乃宗下ハ俳諧よ

七乃あり

きのこ

猿引ハ猿乃小袖はきぬ

入麩乃下もよもひ

題

く顔や秋ハるゝの

おくれの返らり果ハ本曾ハ秋

初茸草やまゝ白敷るぬ秋の露

ひーきけらぬ露

あき

稲まゝ茶のたけ

秋のたけ

糸乃ね大根乃糸

あき

指乃實のこ

初

叶秋ハ

山ハの蜜柑乃色乃

暮秋

桐敷く秋乃終りや暮乃霜

以秋乃獨多乃とや青登
棋

行し秋やとて多乃と

秋とてやとて多乃と
月の形

以秋や身よ引しよ
三布
蒲團

秋深ま隣ハ何なる

憶老杜

野風を吹く暮秋歎

讀の
子杜

野風ハ延家
天秋乃あり
流り



